令和６年度第１回仙台市協働まちづくり推進委員会　議事録

○日　　時：令和６年７月24日（水）10：00～12：00
○場　　所：仙台市役所本庁舎８階　第１委員会室
○出席委員：高浦康有委員長、岩間友希副委員長、飯田有紀子委員、岡田彩委員、加藤隆委員、可野沙織委員、神尾真大郎委員、小林幸司委員、庄子康一委員、傳野貞雄委員、春由美委員、藤原希美委員
○事務局　：市民局長、市民局次長、市民局次長兼市民活躍推進部長、市民協働推進課長、地域政策課長、市民活動推進係長、連携推進係長、他担当職員

○次第
１　開会
２　市民局長挨拶
３　委員紹介
４　議事
（１）委員長・副委員長の選任
（２）仙台市協働まちづくり推進委員会の運営について
（３）仙台市協働まちづくり推進委員会の審議内容について
（４）次期「仙台市協働まちづくり推進プラン」の策定について
（５）「協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況報告書（令和５年度実績）」について
（６）若者が活躍するまちづくり事業について
５　その他
６　閉会

○会議内容

1　開会

［事務局（市民活動推進係長）］

・委員12名中、本日は12名が参加。出席が過半数を超えており、仙台市協働によるまちづくりの推進に関する条例施行規則第４条第２項の規定に基づき、会議は成立する。

2　市民局長挨拶

（省略）

3　委員紹介

（省略）

4　議事

（１）委員長・副委員長の選任

［事務局（市民活動推進係長）］

・委員長および副委員長は、委員の互選により定めることとなっている。委員の皆様からご提案をお願いしたい。

［小林委員］

・これまでの実績と高い見識から、高浦委員を委員長に推薦させていただきたい。

［事務局（市民活動推進係長）］

・ただいま委員長に高浦委員を推薦いただいたが、皆様いかがか。

（一同、賛同）（高浦委員　了承）

［事務局（市民活動推進係長）］

・続いて、副委員長の選任について委員の皆様からご提案をお願いしたい。

［高浦委員長］

・副委員長として、これまでの本委員会への議論に参加いただいていた経過から、岩間委員を推薦する。

［事務局（市民活動推進係長）］

・ただいま副委員長に岩間委員を推薦いただいたが、皆様いかがか。

（一同、賛同）（岩間委員　了承）

（２）仙台市協働まちづくり推進委員会の運営について

[事務局（市民活動推進課長）]

・資料１に基づき説明

[高浦委員長]

・議事録署名人については、出席者の中から五十音順で指名したい。今回は飯田委員にお願いしたい。

（飯田委員　了承）

（３）仙台市協働まちづくり推進委員会の審議内容について

[事務局（市民活動推進課長）]

・資料２に基づき説明

[高浦委員長]

・議事について、質問・意見等はあるか。

・質問・意見等無いようなので、次の議事へ進行させていただく。

（４）次期「仙台市協働まちづくり推進プラン」の策定について

[事務局（市民活動推進課長）]

・資料３に基づき説明

[小林委員]

・市政モニター400名で意識調査を行うとのことだが、そもそも市政モニターはどのように選ばれたものなのか。

[事務局（市民活動推進課長）]

・市民に対して公募を行い、応募があった方の性別や年齢等の属性を考慮して選んだうえ、「市政モニター」として委嘱している。市民協働だけに限らず、市政の全般的な課題等に関する意見をお伺いするもの。

[岩間副委員長]

・10月～11月の市民意識調査について、市政モニターの属性などについて「こういう属性の方が良いのではないか」といった議論もできるのか。

［事務局（市民活動推進課長）］
・既に所管課で今年度のモニターを選定しているため、当課では選定できない。

［高浦委員長］
・「仙台市協働まちづくり推進プラン 2021」の策定の際はちょうどコロナが猛威をふるっていた時期であった。社会の潮流の変容などを踏まえつつ、また、時宜にかなった質問事項を入れながら新プランに反映できればよいかと思う。

（５）「協働によるまちづくりの推進に関する市の施策の実施状況報告書（令和５年度実績）」について

［事務局（市民活動推進課長）］
・資料４に基づき報告

［岡田委員］
・「基本施策に関する事業」で数値目標等がないものに関して評価欄が一律で「予定通り取り組みを進めた」となっているが、表記の理由を教えてほしい。
・C 評価の「進捗が遅れている」事業について、例えば「地域課題解決プロボノ活用」については件数が０件となっているが、その理由はなにか。

［事務局（市民協働推進課長）］
・数値目標がない事業については、定量的に実績を把握することが難しいものであるため、表記を揃えている。ただし、何らかの形で実績を把握できるようにすることが必要と考えており、次期プラン策定の際は目標の設定の仕方も改めて検討する。
・「地域課題解決プロボノ活用」は、このプランを策定した当時は、団体とプロボノワーカーとのマッチングを行う事業として、マッチングの件数を目標として掲げていた。しかし、取り組みを進めるなかで様々な課題が見えてきて、一度課題を整理するためにマッチングは中止したことから、令和５年度の実績は０件、C 評価となった。
・令和６年度からは、プロボノの認知を広げる方向に事業を軌道修正している。具体的にはプロボノを活用したい、またはマッチングを担う支援組織に向けた研修を行うこととしており、７月 25 日に研修を開催予定である。

［神尾委員］
・実績の先に何があるのか、などといった点も成果の測り方のひとつであると思っている。成果を取りまとめたものがあるのか、あるいは今後取りまとめていく予定があるのかについて伺いたい。

・また、市民の目線でこの報告書を見ると、報告書の 100 ページもの情報量というのが、専門家であればこの分量を読めると思うが、市民が読む量としては多い印象を受ける。多くの事業がうまれていることは伝わるが、そのうえでどのような社会的なインパクトがあったのかなどが、市民の目線で読みやすく分かるといい。

[事務局（市民協働推進課長）]
・質問２点について、アウトプット・アウトカムについてのことかと思うが、現状としては個別事業の実績報告を集約したものに留まっており、個別事業や掲載事業全体がこの先どのような効果を生むのかについては把握できていない。おっしゃる通り、効果を見据えていくことも必要であり、その効果をどういった手段で把握するかという点についても、今後検討を重ねていきたいと考えている。
・事業の広がりを重視してきた結果、報告書の情報量が多くなっている部分があると思う。市民協働を進める立場として、市民の方によりわかっていただく努力が必要と考えており、情報量や情報の見せ方についても、今後検討していく。

[春委員]
・「地域課題解決プロボノ活用」については、私が所属している社会福祉協議会も、市民協働推進課との協働で、地域団体２団体へのマッチングに関わった。３年程前のことではあるが、当時の地域におけるプロボノへの認識は今以上に薄いものだった。ただ、当事業のマッチングを経て、両地域ともプラスに働いたものと記憶している。
・私個人としては、仙台は、プロボノへの意識そのものがまだ薄いという印象を持っている。誰にどうやってプロボノをお願いできるのか、というところもわからない。認識を広めていくための働きかけが必要だし、プロボノとそれを利用したい団体との双方をコーディネートしていく存在が必要だ。

[事務局(市民協働推進課長）]
・おっしゃる通り、プロボノを活用したい団体、プロボノをやってみたい方、その間をつなぐ中間支援組織の３者が揃わないと具体なマッチングに繋げられないという課題を認識していたところである。今年度、当課で実施する研修の参加者の反応なども見ながら、次年度以降の事業内容の検討も進めていきたい。

[高浦委員長]
・「地域課題解決プロボノ活用」について、これまでは町内会団体に限っていたものと記憶しているが、今後は一般の NPO やボランティア団体も含むという認識でよろしいか。

［事務局（市民協働推進課長）］
・お見込みの通り。幅広に市民活動団体を対象にしていく予定である。

（６）若者が活躍するまちづくり事業について

［事務局（市民協働推進課長）］
・資料５に基づき説明

［岩間副委員長］
・若者事業の３事業については、資料４の報告書において全てＡ評価となっていることもあり、事業の方向性に間違いがあるものではないと思う。
・一方で、この３事業それぞれにおいて、若者が参加する心理的なハードルが結構大きいもののように感じている。一番そのハードルが低いのが「仙台まちづくり若者ラボ」（以下、「若者ラボ」）と思う。高校生などを含めた若者が乗り越えるのに適切なハードルを設定しておくことが必要ではないかと思う。
・例えば、「初めてボランティアをしてみました」といったような、大人から見たら小さなアクションであっても、挑戦する本人にとってはその挑戦が活動に初めて触れる大きなきっかけになるということもある。

［事務局（市民協働推進課長）］
・過去に若者ラボに参加した若者が、その後チームを組んで「ユースチャレンジ！コラボプロジェクト」（以下、「ユーチャレ」）に応募したという事例もあり、ステップを踏んでいる若者もいる一方で、ご意見のとおり、参加のハードルが高く感じる人もいるかもしれない。ハードルを下げる工夫や、当課の事業の間のステップの重ね方などは、今後意見をいただきながら検討していきたい。

［小林委員］
・全体的な事業の取組みは非常に良いものと認識している。
・若者の意見・やりたいことを自由に発言してもらう場は重要だが、それを具体的に実現可能に落とし込むこと、「こういうことであれば実現できるかもしれない」という形にするには、サポートが重要だと思う。そのサポートを事務局（市民協働推進課）だけで行っていると、事務局の負担が過大になったり必要なサポートが行き届かないということにもなりかねない。
・本委員会には、多様な分野におけるまちづくりのプロがいることもあるので、例えばそういったプロと連携をすることや、意見の聴収をすることを、市としても考えても

よいのではないだろうか。

[事務局（市民協働推進課長）]
・事業によっては、業務委託等で、プロに協力いただきながら行っているものもある。しかし、ユーチャレのように、若者団体と市の協働想定課をマッチングする場面では、当課の職員が仲介役として必要となる。事業を進める体制は、今後引き続き検討していきたい。

[飯田委員]
・岩間委員の意見に共感している。何かを始めることは非常にハードルが高い。何かやってみたくても、よくわからない団体に飛び込んでいくのも、勇気がいる。そのとき、参加する事業や団体に市が関わっているものだったりすると、安心して挑戦することができる。
・まず始めるきっかけという意味では、個々の単発イベントを集約していく取り組みなどがあるといいのではないか。そういうものがあれば、若者にとっては最初の一歩を踏み出しやすくなる。また、イベントを開催している団体は集客に苦労していることが多いため、イベントや団体を知ってもらう機会としても期待できる。

[高浦委員長]
・情報の集約、発信という点でいうと、今年度からの新規事業として「若者情報局」の紹介があったが、そのあたりはいかがか。

[事務局（市民協働推進課長）]
・若者情報局事業は今年度に開始したばかりだが、情報を発信する視点だけでなく、受け手への伝わり方をどう把握していくかという点も話し合いを進めている。
・ご意見のように、発信した情報によってより活動に踏み出せるような、そんな情報を発信していけるよう検討していきたい。

[庄子委員]
・０から１を生み出すだけでなく、もっと細かい取り組みがあるはず。
・一度活動を体験してみて運営の様子を見ることで、そこから「自分もやりたい」に繋がることもある。やはり、活動を肌で感じるということが重要ではないだろうか。

[神尾委員]
・人によって活動に参画するステップというのは様々。だからこそ、「若者ラボ」や「ユーチャレ」のように有期の取組みだけではなく、通年でそういう取組に触れるこ

とができる窓口があるとよい。
・過去に「若者ラボ」に参加し、その後、参加者を支えるメンターとして２年間関わったが、幅広い年齢間での参画に意義があると感じた。市と若者だけでなく、市と若者と地域団体だとか、様々な主体の融合が生まれるとなおよい。

［岡田委員］
・人間の行動を変えるためにどのような後押しができるかという、行動の変容を研究している自分としては、若者意識調査の「まちづくり活動に関心があると答えた若者のうち実際に活動に参加した経験がないと答えた若者の割合が７割」という結果に、これからの取り組みの可能性を感じた。
・どういった後押しがあれば彼らが行動に移せるのか、関心がある。
・「若者ラボ」は半年間の期間があることにハードルを感じる若者もいるのではないかと感じる。もっと手軽にチャレンジできる機会があると良いと思う。
・また、これら取り組みは若者のための事業と思うが、これがあることで大人たちや地域の方への影響はどうあるのか、そのシナジー効果について検証してほしい。

［加藤委員］
・私が所属する「ながまちマチキチ」で若者だけで構成するチームが取り組みをしているが、若者にとっては打ち合わせなどに毎回参加するのはハードルを感じるようだ。
・そのハードルを感じさせないよう、団体では「予定が合えばおいで」というスタンスで月１回食事会を設け、そこで情報交換や近況報告をする時間を設けるようにした。すると、友達を連れてくる若者もいたりして、輪の広がりを感じるし、面白いことができそうだという刺激をもらうことができた。

［可野委員］
・私は若手の起業家、企業の方を支援する「enspace」というシェアオフィス・コワーキングスペースを運営しており、そこで大学生と働いている。
・大学生はすごく真面目。そのうえ、大人たちが自分たちに何を求めているのかもわかっている。だからこそとんでもなくプレッシャーを感じている。
・加藤委員の「ご飯だべるだけでいい」という話があったが、「意味のあるものでなくてもいいんだ」「ふざけてもいいんだ」と思わせてあげることこそが、若者が「やりやすい」「はじめやすい」と感じてもらえる要因になるのではないだろうか。

5　その他

［高浦委員長］

・では、最後に「５．その他」について、事務局からは特にないようだが、皆さんから何かあるか。

（特になし）

［事務局（市民活動推進係長）］

・本日の委員会はこれにて終了とさせていただく。

―了―

〈議事録署名人〉

［委員長］高浦　康有

［署名人］飯田　有紀子